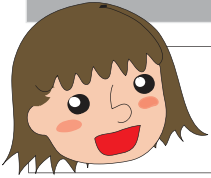




知床科学委員会 しんぶん

知床世界自然遺産地域 科学委員会 NO. 12



「知床で今何が起きているの!?」「どんな調査が行われているの!?」など、タイムリーな情報をお伝えします。

必見! TOPIC

“世界遺産”の価値をどう守る? ～知床が続けてきた取り組み～

毎年知床に関わるたくさんの会議が開かれているのをご存知でしょうか。知床の世界遺産としての価値を将来にわたって守り続けるために、知床では国内の遺産地域で初めて「科学委員会」を設置しました。委員会では、専門家から保全や管理について科学的な助言を得て、知床が抱える様々な課題の解決に役立てています。さらに委員会は、テーマごとに4つのワーキンググループ等に分かれ、より踏み込んだ話し合いを行っています。今、知床ではどのようなことが話し合われているのでしょうか。ぜひ会議の動向にご注目ください。



科学委員会の様子

図:科学委員会(本体)と関連会議の関係

テーマ毎に全部で4つのワーキンググループ(WG)等が設けられています。

※エコシカ・陸上生態系WGを再編し、今年度より新体制でスタート

エコシカ・ヒグマWG

- ◆エコシカ対策の継続とモニタリング
「シカの密度が変化して、植生はどう回復?」
- ◆ヒグマのアクションプラン
「ヒグマと人がうまく共存するには?」 など

最近の
主な話題

海域WG

- ◆世界遺産委員会から出された宿題への対応
「トドの駆除をどうするか?」
- ◆第3期海域管理計画の策定に向けた見直し
「今の知床の海に必要な管理とは?」 など

河川工作物AP※

※アドバイザー会議

- ◆世界遺産委員会から出された宿題への対応
「ルジャ川のダムをどう改良する?」
- ◆新しいモニタリング手法の検討
「環境DNAを使って川の魚を調査!」 など

適正利用・エコツーリズムWG※

※適正利用・エコツーリズムWGは単体では開催せず、部会と合同で検討会議を開催しています。

適正利用・ エコツーリズム検討会議

提案の一例

- ◆エコツーリズム戦略に基づく提案の検討
「自然のより良い利用の形とは?」
- ・知床五湖厳冬期の利用
- ・赤岩昆布ツアー
- ・外国人への情報発信の強化 など

適正利用・エコツーリズム部会

知床科学委員会 (本体会議)

専門家が科学的視点
でアドバイス

地域との連携・
協働のための会議

地域連絡会議

今回の会議

科学委員会本体会議は、毎年、年2回開催されています。平成29年度1回目の会議は、8月4日(金)に斜里町の公民館ゆめホール知床で開催されました。第2回会議は、来年2月頃に札幌での開催を予定しています。



知床の価値を守るため色々な話し合いが行われているんだね。

会議は誰でも傍聴することができます。



今回話し合ったこと

- ①各ワーキング等の検討状況
- ②長期モニタリングについて
- ③第41回世界遺産委員会決議の対応について



長期モニタリング計画の見直しが始まりました！

知床では、自然環境の変化をモニタリングし、科学的な知見に基づいた順応的な管理を行うために、「長期モニタリング計画」の運用を平成24年度に開始しました。

計画は、10年を一区切りとしていますが、5年毎に内容の見直しを行うこととなっています。計画の開始から5年目を迎える今年度、科学委員会と各WGでは、見直しのための議論がスタートしました。来年度までの2年間をかけて、これまでの5年間の総括や、現在定められている37個のモニタリング項目について、項目や評価の見直しを進めていきます。



第1回会議の様子



モニタリング項目のこれまでの調査結果を、過去のニュースレターでも詳しく紹介しているので、ぜひのぞいてみてね。



世界遺産委員会から出された新たな宿題

今年7月に、ポーランドのクラークフで第41回世界遺産委員会が開催されました。この委員会では、2016年に世界遺産委員会へ提出した報告書に基づいて知床について審議が行われました。

その結果、これまでの知床での取り組みが評価された一方で、トドの管理やルシャ川のダム改良等について新たに5つの宿題が出されました。今後、海域WGや河川工作物APなどを中心に対応の検討が進められ、来年12月までに報告書を提出することとなっています。



トドの駆除の見直しと、サケの移動や産卵を妨げるダム等の撤去に向けたさらなる努力が求められました。



知床の海に來遊するトドの群れ



カラフトマスの遡上

これまでの流れと今後の予定

- ‘05年7月 世界自然遺産に登録 (第29回世界遺産委員会、南アフリカ・ダーバン)
- ‘15年7月 知床に関する決議 (ドイツ・ボン、第39回)
- ‘16年11月 第39回決議に対する保全状況報告書を提出
- ‘17年7月 知床に関する決議 (ポーランド・クラークフ、第41回)
- ‘18年12月 保全状況報告書をIUCNIに提出(予定)
- ‘19年 第43回世界遺産委員会で検討(予定)

科学委員会の構成メンバー

- 委員長・海域WG座長
桜井 泰憲 (函館頭足類科学研究所 所長)
- エゾシカ・ヒグマWG座長 ※今年から新しくメンバーに加わりました。
★宇野 裕之 (環境科学研究センター 研究主幹)
- 河川工作物AP座長
中村 太士 (北海道大学大学院 教授)
- 適正利用・エコツーリズムWG座長
敷田 麻実 (北陸先端科学技術大学院大学 教授)

- 愛甲 哲也 (北海道大学大学院 准教授)
- 石川 幸男 (弘前大学白神自然環境研究所 教授)
- 梶 光一 (東京農工大学大学院 教授)
- 工藤 岳 (北海道大学大学院 准教授)
- 志田 修 (北海道中央水産試験場 資源管理部長)
- 白岩 孝行 (北海道大学低温科学研究所 准教授)
- 牧野 光琢 (中央水産研究所 水産政策グループ長)
- 綿貫 豊 (北海道大学大学院 教授)

※委員長・座長以下、50音順

会議やバックナンバーの内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター で検索!

<http://dc.shiretoko-whc.com/>

ここで紹介したグラフや、知床で行われている様々なモニタリングデータをご覧いただけます!



■問合せ先■ 環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639 北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4階 TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

■発行：環境省

■制作：公益財団法人 知床財団

■発行日：2017年10月